

武里南地区公民館・武里大枝公民館

◇運営の基本方針

生涯学習の拠点施設のひとつとして、市民の学習要求に応える事業及び情報の提供を行う。

◇重点施策

- 1 きめ細やかな学習の場と情報を提供する。
- 2 青少年の健全育成の場を設ける。
- 3 地域住民の健康増進と住民相互の交流を図る。

◇重点事業

- | | |
|--------------|-------------|
| 1 子育てふれあいサロン | 2 武里団地地区体育祭 |
| 3 青少年健全育成事業 | 4 音楽鑑賞会 |

武里南地区公民館

所在地 〒344-0023 春日部市大枝89番地武里団地7街区5棟

TEL 048-736-8104

E-mail takenankou@city.kasukabe.lg.jp



武里大枝公民館

所在地 〒344-0023 春日部市大枝89番地武里団地2街区1棟

武里大枝市民センター内

TEL・FAX 048-737-8022

E-mail ohedakou@city.kasukabe.lg.jp



武里南

職員	館長(兼務)	関口信義	主査(兼務)	松田あかね
	主任(兼務)	遠藤一吉	主任(兼務)	坪井大貴
	主任(兼務)	原田瞬	(社会教育主事)	
	フルタイム(兼務)	金子喜久江	フルタイム(兼務)	清和秀樹
	フルタイム(兼務)	大石富美代		

武里南地区 1

事業名 テーマ	サークル発表会(1) 舞台部門		対 象	一般		定員	団体により異なる
ね ら い	公民館で活動しているサークルの成果発表の機会を提供することで、サークルの文化活動及び社会教育活動を支援するとともに、地域に対し活発な公民館活動をPRすることを目的として実施する。						
協力機関 及び団体			特 色 位置づけ			SDGs の目標No	4・11・17
会 場	武里大枝公民館 武里南地区公民館		教 材 資料等	プログラムなど			
実施までの経過	窓口にて募集要項を配布(常時募集) 開催依頼書の提出 内容及び日程の調整 実施日までに詳細を打合せ 実施		PR方法	公民館だより ブログ ポスター			
			受付方法	団体により異なる			
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回 数	総時間数			男 計	女 計	合計	
7月6日(日)	13:30～14:30	①サマーウクレレコンサート	鑑賞	8	44	52	タートルズ
9月14日(日)	13:30～15:00	②セプテンバーウクレレコンサート	鑑賞	11	42	53	ウクレレ・ヴィレッジ
11月22日(土)	14:00～15:30	③ワークショップ＆ ダンスパフォーマンス	体験 鑑賞	6	36	42	シニアバレエ
12月19日(金)	11:00～12:30	④クリスマスコンサート	鑑賞	7	47	54	コール・アネモネ
							
4回	5時間30分			32	169	201	
企画運営上の工夫	・文化祭に代わる発表の場を提供することで、サークル活動を活性化させるほか、地域住民に様々な活動を知らせる機会となるよう工夫した。 ・各団体に参加を積極的に呼びかけ、自主的運営を支援することで団体の自主性と個性を生かすよう努めた。						
成果 参加者の声など	①「衣装も夏らしく、歌声も選曲もみんな良い。満足でした」 ②「皆で歌ったり口ずさむ事ができて、なつかしいひと時を過ごせました。」 ③「地域に根差した素晴らしい発表会でした。」 ④「選曲が良く、歌声も素晴らしく、良いクリスマスプレゼントになりました。」						
課題と展望	・全ての団体が昨年度も参加した団体であり、再び鑑賞等ができることを喜ぶ声が多く聞かれた。 ・一方で、未発表の団体は依然多く、様々なジャンルの団体が発表できるよう公民館の協力体制を強化するなどし、積極的な参加を促したい。						

事業名 テーマ	サークル発表会(2) 展示部門		対象	一般		定員	—	
ねらい	公民館で活動しているサークルの成果発表の機会を提供することで、サークルの文化活動及び社会教育活動を支援するとともに、地域に対し活発な公民館活動をPRすることを目的として実施する。							
協力機関 及び団体			特色 位置づけ			SDGs の目 標No	4・11・17	
会場	武里大枝公民館		教材 資料等					
実施までの経過	窓口にて募集要項を配布(常時募集) 開催依頼書の提出 内容及び日程の調整 実施日までに詳細を打合せ 実施		PR方法	公民館だより ブログ				
			受付方法	団体により異なる				
月日(曜)	時間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名	
回数	総時間数			男	女	合計		
				計	計			
5月13日(火)～5月27日(火)		①武美会	展示	29	80	109	武美会	
8月3日(日)～8月17日(日)		②俳句の作品展	展示	11	25	36	葵俳句会	
8月19日(火)～9月2日(火)		③習字の作品展	展示	14	36	50	習字サークル	
								
								
3回	—			54	141	195		
企画運営上の工夫	・文化祭に代わる発表の場を提供することで、サークル活動を活性化させるほか、地域住民に様々な活動を知らせるとともに、素晴らしい作品との出会いの機会を創出した。 ・各団体に参加を積極的に呼びかけ、自主的運営を支援することで団体の自主性と個性を生かすよう務めた。							
成果参加者の声など	①「みなさんの絵の一つ一つに個性を感じ、とても感動しました。」 ②「それぞれの想いが17文字に込められていて、様々なシーンが浮かびます。」 ③「やはり毛筆の字は美しいですね。最近字を忘れたり、字をピシッと書けなくなったりしていたので、見られて気持ちが良かったです。」							
課題と展望	・全ての団体が、新たに参加した団体だった。引き続き、公民館だよりでの広報のほか、窓口での声かけなどを積極的に行っていく。 ・一方で、昨年度参加した団体はいずれも参加がなかった。(うち1つは活動休止。)展示期間以外でも、団体へ継続的な支援の方策が必要であると考えます。							

武里南地区 3

事業名 テーマ	音楽鑑賞会(1)		対 象	一般		定員	出演者により異なる
ね ら い	武里団地、その他周辺地域の住民を対象として、音楽を通じて心と身体の健康促進の一環として実施する。						
協力機関 及び団体			特 色 位置づけ			SDGs の目 標No	4・11・17
会 場	武里大枝公民館		教 材 資料等	プログラム			
実施までの経過	各事業とも実施までに、出演者折衝、打合せ、広報を行う		PR方法	公民館だより ポスター・チラシ ブログ			
			受付方法	直接または電話で会場となる公民館へ(先着申込)			
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回 数	総時間数			男	女	合計	
				計	計		
6月8日(日)	14:00～15:30	①オカリナアンサンブル 聴いてみよう♪吹いてみよう♪	鑑賞 体験	9	43	52	ライリッシュ・オカリナ連盟 上田幸江ほか1名
9月20日(土)	13:30～15:00	②クラシックアンサンブルコンサート	鑑賞	10	68	78	アンサンブルリール
11月12日(日)	10:00～11:20	③お口に健康を♪ 心に栄養を♪	講義 鑑賞	12	64	76	セントラル歯科 君塚崇ほか2名
11月16日(日)	14:00～15:40	④昼下がりのウクレレコンサート	鑑賞	17	103	120	ウクレ合奏団はるれれ
12月14日(日)	14:00～15:30	⑤Xmasコンサート	鑑賞	25	98	123	ソレイユ・マントリヌ
							
5回	7時間30分			73	376	449	
企画運営 上の工夫	・市内で活躍する個人・団体の活躍の場を広げるとともに、多様かつ斬新な鑑賞機会を提供できるよう、①③④⑤については今年度新たに出演を依頼した。 ・鑑賞と同時に、①ではオカリナの体験、②では作曲家などに関するクイズ、③では歯の健康に関する講座、④⑤では参加者全員で歌唱する企画を設けるなど工夫した。						
成 果 参加者の 声 など	①「オカリナの音色が良かった。体験できるのが嬉しい。」 ②「クラシックを身近な場所で気軽に聞けてとても良かったです。」 ③「分かりやすい講義内容で、演奏もとても素敵でした。」 ④「聴くだけでなく歌ったり、手遊びなど参加できる企画があり一体感がありました。」 ⑤「懐かしく多種多様な選曲楽しめました。はつらつと演奏されている姿に元気をもらいました。」						
課題と展望	各鑑賞会において様々な企画を実施したが、いずれも好評であった。アンケートの結果でも、満足とやや満足の割合が約99.5%と大変好評であり、来年度以降も継続を検討するとともに、事業内容のさらなる充実を図っていく。						

事業名 テーマ	音楽鑑賞会(2)		対象	一般	定員	出演者により異なる	
ねらい	武里団地、その他周辺地域の住民を対象として、音楽を通じて心と身体の健康促進の一環として実施する。						
協力機関 及び団体			特色 位置づけ		SDGs の目 標No	4・11・17	
会場	武里南地区公民館		教材 資料等	プログラム			
実施までの経過	各事業とも実施までに、出演者折衝、打合せ、広報を行う		PR方法	公民館だより ポスター・チラシ ブログ			
			受付方法	直接または電話で会場となる武里南地区公民館へ(先着申込)			
月日(曜)	時間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回数	総時間数			男 計	女 計	合計	
11月29日(土)	14:00～15:30	①オータムコンサート	鑑賞	8	37	45	父ちゃんバンド
12月20日(土)	13:30～15:00	②クリスマスコンサート	鑑賞	10	41	51	なちゅ☆らる
							
2回	3時間			18	78	96	
企画運営 上の工夫	・過去の音楽事業アンケートの要望で一番多い「昭和歌謡を聞きたい」という要望に応えるべく、出演者との打合を繰り返し、住民の満足度向上に努めた。 ・高齢者に馴染みのある昭和歌謡などを選曲することにより、観客も一緒に歌うことが出来て、懐かしい郷愁に浸るとともに発声することでの健康増進を図った。						
成果 参加者の 声など	①「幅広いレパートリーで、どの曲も大変満足しました。オリジナル曲も聴きごたえがあり、感動しました。また、是非とも聴きたい、参加したくなる音楽イベントでした。」 ②「大正琴の演奏を初めて生で聞き感動しました。」、「なつかしい曲を聞いて、青春時代を思い出し楽しい時間を過ごすことが出来ました。」						
課題と展望	・アンケートの結果、70歳以上の割合が全体の約85%と大変高い水準となった。遠方の会場へ行くことが困難な住民のためにも、今後も、身近な公民館で質の高い音楽鑑賞会を実施していく必要がある。 ・鑑賞型から参加型の「歌声喫茶」のような事業スタイルを検討していきたい。						

武里南地区 5

事業名 テーマ	子育てふれあいサロン		対 象	乳幼児と保護者		定 員	開催月により異なる
ね ら い	子育てに関する考え、悩みを持つ子育て中の親に、交流と情報の交換の場所を提供し、子育ての負担感の軽減を図るとともに、幼児期の育児について学習してもらい、子育て力の向上、地域の子育て支援機能の拡充を図る。						
協力機関 及び団体	武里団地地区民生委員・児童委員協議会 春日部市更生保護女性会武里団地地区 子育て応援団 ゆめ色		特 色 位置づけ	重点事業		SDGs の目 標No	3・11・17
会 場	武里南地区公民館		教 材 資料等				
実施ま での経 過	前年度3月に民生委員・児童委員協議会、子育て応援団 ゆめ色へ協力依頼以降、毎月の開催までに講師折衝、打合せ、広報を行う		PR方法	公民館だより SNS等(LINE・メール・ブログ)			
			受付方法	9、10、12、2月は要申込(先着申込) それ以外は申込不要			
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回 数	総時間数			男 計	女 計	合計	
5月21日(水)	10:00～11:30	アコーディオンの音とともに・・・	鑑賞	1	0	1	松井哲也ほか
6月18日(水)	10:00～11:30	親子で作ろう！ケロケロカスターネット	体験	4	6	10	公民館職員
7月16日(水)	10:00～11:30	絵本の読み聞かせ、手遊び	鑑賞	3	6	9	武里図書館司書
9月20日(土)	10:00～11:30	ちびっ子運動会！	体験	14	14	28	子育て応援団ゆめ色
10月15日(水)	10:00～11:30	えいごであそぼう☆楽しいハロウィン	体験	3	13	16	鳩間美和
11月19日(水)	10:00～11:30	絵本の読み聞かせ、手遊び	鑑賞	1	3	4	武里図書館司書
12月13日(土)	10:00～11:30	わくわく♡クリスマス会	体験	17	34	51	山森澄子、山田優子
1月21日(水)	10:00～11:30	ちよっぴり早い豆まき	体験	1	3	4	公民館職員
2月18日(水)	10:00～11:30	ビーズでコースターを作ろう	体験	3	5	8	公民館職員
9回	13時間30分			47	84	131	
企画運営 上の工夫	・参加者同士や協力者との交流・情報交換ができるよう、自由に話せる時間を設けた。 ・親子で楽しめる季節に因んだ企画を実施し、育児の息抜きや、お子さんとの思い出作りの場になるよう努めた。 ・武里団地地区民生委員・児童委員協議会や地域の子育て支援サークルの皆さんに運営の協力をしてもらい、子育ての先輩として参加者の相談にのってもらえるようにした。						
成 果 参加者の 声 など	・参加者が企画を通して楽しい時間を共有することで、参加者同士の交流に繋がっている。 ・9月、12月の土曜開催は参加者が特に多く、平日に参加が難しい方との新たな交流を促すことができた。 ・毎月のアンケートには「楽しかったです。」「普段できない体験ができた。」等の声が聞かれ、子どもと保護者共に開催を楽しんで頂いていることが分かる。						
課題と展望	・乳幼児の保護者同士が気軽に交流できる場として、相談や情報交換の機会を提供し、楽しい企画を考案したい。 ・参加者数については、開催月によりばらつきがあり減少傾向にもあるので、子育て中の方のニーズを把握し、企画内容を検討していきたい。						

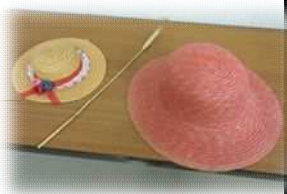
事業名 テーマ	第6地域包括支援センター共催事業		対 象	一般	定員	①各20名 ②定めず	
ね ら い	認知症の方やその家族、地域の方や専門職が集い交流を楽しめる場として、また介護についての悩み事などを自由に話しあえる場所を提供する。						
協力機関 及び団体	第6地域包括支援センター	特 色 位置づけ	共催事業	SDGs の目 標No	3・4・11・ 17		
会 場	武里大枝公民館	教 材 資料等	内容によって異なる				
実施まで の 経 過	公民館だよりにて広報を行う	PR方法	公民館だより				
		受付方法	第6地域包括支援センターに事前 申込み				
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回 数	総時間数			男 計	女 計	合計	
4/1・5/13・ 6/3・7/1・ 8/5・9/2・ 10/7・11/11・ 12/2・2/3・ 3/3	1部 13:00～14:00 ----- 2部 14:10～15:10	①オレンジカフェ 認知症の方と家族などが 気楽に集い交流を楽しむ (毎月第1火曜日)	交流	43	373	416	第6地域包括支援 センター
4/24・5/22・ 6/26・7/24・ 8/28・9/25・ 10/23・ 11/27・ 12/25・1/22・ 2/26・3/26	13:30～14:30	②介護者交流サロン「福」 (介護者どうしの交流) (毎月第4木曜日)	交流	2	70	72	第6地域包括支援 センター
23回	34時間分			45	443	488	
企画運営 上の工夫	①認知症の方やその家族、地域住民や専門家が気軽に集い交流するきっかけとなり、 脳トレや小物づくりなど毎回異なる企画を設けることにより、参加者が楽しく参加できるよ う工夫した。 ②毎月定期的に開催することにより、参加者が外出するきっかけ作りを行った。						
成 果 参加者の 声 など	①継続して参加する方が多い中、新規の参加もあり毎回盛り上がりを見せている。 ②毎回継続して参加する方が多く、同じ経験を共有する仲間に出会える場となってい る。						
課題と展望	第6地域包括支援センターとの連携を強化し、企画内容の充実を図り、また事業の周知 を積極的にしていきたい。						

事業名 テーマ	生涯学習市民推進員企画事業(1) ①春の散策 ②秋の散策		対象	成人		定員	30名 (大枝15名 武里15名)
ねらい	高齢者の多い武里団地近隣在住の市民が、市内の魅力を再発見し愛着を深められる場にするとともに、工場見学などを通し、伝統や叡智を知ること生涯学習の推進を図ることを目的とする。						
協力機関 及び団体	生涯学習市民推進員(以降、推進員) 武里地区公民館		特色 位置づけ	推進員企画 共催事業		SDGs の目 標No	4・11
会場	市内及び市外各所		教材 資料等	しおり(公民館で作成)			
実施ま での 経 過	各事業とも実施までに、推進員および 武里地区公民館との打合せの後、コース の下見等を行う		PR方法	公民館だより ポスター・チラシ ブログ			
			受付方法	直接または電話で武里大枝公民館 もしくは、武里地区公民館へ ①は先着申込、②は抽選申込			
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回 数	総時間数			男 計	女 計	合計	
5月23日(金)	9:30～11:45	小淵観音院→追分・一里 塚→八坂香取稲荷神社・ 仲蔵院→ビッグアート→ 古利根公園橋	散策	5	9	14	推進員 (解説・随行)
							
11月22日(土)	9:30～16:00	ヤクルト本社茨城工場 →道の駅ごか →春日部市美術展覧会	見学 鑑賞	4	10	14	工場職員
							
2回	8時間45分			9	19	28	
企画運営 上の工夫	いずれの事業についても、時間・場所・予約状況により候補地を選定し、参加者の負担とならない場所を推進委員の総意で決定する。 ①梅雨により天候不順が多くなる6月下旬を避けるとともに、熱中症リスクにも留意し、5月下旬の日程とするとともに、推進員は自ら学習し得た知識を地域に還元するため、解説者としての役割を担うなどの工夫をした。 ②申込み方法について、昨年同様の事業が大変人気であったことや公平性の観点を鑑み、抽選方式とした。						
成 果 参加者の 声 など	①「説明が詳しく楽しかった」との感想があり、市内の神社仏閣と芸術文化の奥深さを再確認されたようだ。 ②・公平性を保つための初の試みとして抽選方式としたが、選考と当選者への連絡について混乱なく実行できた。 ・「工場見学、道の駅共に、個人では行きにくい場所にあるので見学できて本当に良かった」などの満足度の高い意見が多かった。						
課題と展望	①天候に左右される散策形式のため、雨天時のプログラムを検討するとともに、暑さ対策として休憩所を設けるなど検討の余地がある。 ②散策・市外見学と季節に添った内容を考案し、今後は有料も視野に入れて企画していきたい。						

事業名 テーマ	生涯学習市民推進員企画事業(2) ①自分で育てて見るホタルの光 ②みんなで唄う 昭和歌謡 ♪		対 象	①小学1～4年生 ②一般		定 員	①8組 ②50名	
ね ら い	地域人材のノウハウを活用し、幅広い年齢層の方に様々な手法による事業を展開し、地域住民の情操の純化を図るとともに、地域住民の連帯感を醸成し、延いて生涯学習の推進を図る。							
協力機関 及び団体	生涯学習市民推進員(以降、推進員)		特 色 位置づけ	推進員企画		SDGs の目 標No	4・11・15	
会 場	①武里大枝公民館・参加者自宅 ②武里南地区公民館		教 材 資料等	①説明資料(講師作成) ②プログラム				
実施まで の 経 過	各事業とも実施までに推進員と打合せ、 広報を行う		PR方法	公民館だより ポスター・チラシ SNS等(LINE・メール・ブログ)				
			受付方法	直接または電話で武里大枝公民館 へ(先着申込)				
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名	
回 数	総時間数			男 計	女 計	合計		
6月8日(日)	15:00～15:30	①ホタルに関する説明→ 幼虫を自宅で飼育→ホタル (成虫)の観賞会を1 セットとして実施	講義	22	8	30	推進員 山田農久 (ホタルを育てる会所属、 元小学校教員)	
6月15日(日)	15:00～15:30		体験	21	7	28		
6月27日(金)	18:30～19:15		鑑賞	15	16	31		
10月9日(木)	13:00～14:30	②日本の秋を思いなが ら、昭和の名曲等を演奏 にあわせ全員で歌う	歌唱	出演者の都合 により中止			推進員 佐野哲郎 (ないすはっつメンバー)	
2回	3時間15分			58	31	89		
企画運営 上の工夫	推進員(武里南地区)の協力で、地域人材のノウハウを活かして実施した。 ①・昨年好評だった事業を再度実施し、人と自然が身近に触れ合える機会を作った。 ・餌や飼育器など、最低限必要なものは講師が用意することで、自宅での 飼育難度を軽減させ、小学生が参加しやすくなるよう配慮した。 ②昨年度盛況であったことから、武里南地区公民館近隣の 住民も参加できるよう会場を変え、実施予定であった。							
成 果 参加者の 声 など	①・アンケートでは、「楽しかった」「まあまあ楽しかった」が、 合わせて100%となり、参加者の満足度を十分に満たす ことができた。 ・「ホタルについて知らない子に教えてあげられた」という声もあり、知的好奇心を刺激す るだけでなく、継続的な学習意欲の向上にも寄与することができた。 ②出演者の都合により中止							
課題と展望	推進員のノウハウを活かすことができる貴重な 事業のため、地域特有の事業として今後も継続を 検討するとともに、さらなる発展を目指す。							



事業名 テーマ	青少年健全育成事業 夏休みこども科学教室「音のひみつ」		対 象	小学生		定員	25名
ね ら い	工作などの製作を通して、子どもたちの好奇心や情緒、感性を養うとともに、同年代の人との触れ合いを深める機会とする。						
協力機関 及び団体			特 色 位置づけ			SDGs の目 標No	4・11
会 場	武里大枝公民館		教 材 資料等	資料・教材(講師用意)			
実施までの経過	3月16日 講師折衝 5月中旬 メールにて随時打合せ 7月19日 申込開始 8月 2日 実施		PR方法	公民館だより ポスター・チラシ SNS等(LINE・メール・ブログ)			
			受付方法	直接または電話で武里大枝公民館へ(先着申込)			
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回 数	総時間数			男 計	女 計	合計	
8月2日(土)	10:00～12:00	ストローで笛をつくって合奏しよう♪ ※材料費100円は当日集金	講義	4	5	9	おもしろ彩エンスクラブ 小林 久美恵 小林 睦夫
							
1回	2時間			4	5	9	
企画運営上の工夫	・開催日を夏休み中に設定することで、自由研究などの題材となることを期待するとともに、夏休み中の自主的な学びをサポートした。 ・男子、女子のどちらも興味を持ち、参加者数の増加を図るため、子どもの遊び場を利用する子どもたちにアンケートをとり、テーマを吟味・選定した。 ・材料費を100円に抑えることで参加しやすくし、参加者の増加を図った。						
成 果 参加者の声など	・アンケートでは、「楽しかった」が88%、「まあまあ楽しかった」が12%となり、参加者の満足度を十分に満たすことができた。 ・「ストロンボーンの音をつくるのが楽しかった。」、「音のしくみが分かった。」といった声があり、子どもの知的好奇心を刺激するとともに、音の不思議と科学の面白さを十分に伝えることができたと考える。						
課題と展望	・子どもたちは分からないところを質問しながら、懸命に制作に取り組んでおり、科学を通じて人との触れ合いを深めるというねらいを達成することが出来たと考える。 ・定員が25名のところ参加者は9名にとどまり、より興味関心を惹くテーマについて、講師との打合さを重ねていくこと、及びPRに力を入れていく必要がある。 ・一方で、参加者一人ひとりに対しきめ細かく対応できたことから、テーマの選定とあわせて、適切な定員数についても検討を要する。						

事業名 テーマ	かすかべを学ぶ 大枝ふるさと塾 ～麦わら帽子を深掘る～		対 象	一般	定員	30名	
ね ら い	武里団地及び近隣住民を中心に、地域の歴史や文化に関心を持ち、教養を深めてもらうことで知的好奇心を刺激し、外出や調べるきっかけとなる機会を提供する。						
協力機関 及び団体	郷土資料館		特 色 位置づけ		SDGs の目 標No	4・11	
会 場	武里大枝公民館		教 材 資料等	レジュメ(講師作成) ※スライドにも投影			
実施ま での経 過	4月下旬 6月20日 8月6日 8月22日	講師折衝・決定 打合せ 申込開始 実施	PR方法	公民館だより ポスター・チラシ SNS等(メール、ブログ)			
			受付方法	直接または電話で武里大枝公民館 へ(先着申込)			
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回 数	総時間数			男	女	合計	
				計	計		
8月22日(金)	10:00～12:00	郷土資料館で実施する 企画展の開催期間にあ わせ、スピノフ企画とし て実施	講義	4	8	12	郷土資料館学芸員 榎本 博
							
1回	2時間			4	8	12	
企画運営 上の工夫	・郷土資料館で実施する夏期展示「かすかべの麦わら」(7/23～9/7)のスピノフ企画として実施することで、講座後も参加者が郷土資料館へ赴き、理解をより深められるようにするとともに、自主的な学習を促した。 ・麦わら帽子の「真田編み」を紙テープを用いて体験してもらうことで理解の深度を高める工夫をした。 ・周知の方法について、SNS等を用いて、より幅広く若い世代にも参加していただけるよう配慮した。						
成 果 参加者の 声 など	・参加者数は定員に満たないながらも、参加者の満足度は高かった。 ・アンケートからも「ただ単に麦わら帽子の話ではなく、歴史や地理、世界の社会情勢等幅広く奥深い話が聞けてよかった。」、「資料があり、わかりやすかった。」、「テープの編み方、楽しめました。」など、講師の熱意あるわかりやすい説明で、より深掘りした内容が参加者に伝わったことが伺える。						
課題と展望	・歴史について深掘ることができ、内容も充実していることからリピーターが多い講座である一方、定員を満たすまでには至らず、講座の魅力を発信しより多くの参加を促す方法を模索していきたい。 ・ねらいとしている講座後の郷土資料館の企画へも参加を促し、地域住民の知的好奇心を満たす働きかけをしていきたい。						

事業名 テーマ	①外国料理教室 × ②外国人による日本語スピーチ発表会in武里		対象	①小学生と保護者 ②一般		定員	①5組 ②150名	
ねらい	武里団地近隣在住の外国人を中心に、日本について日頃感じていることや日本の好きなどところなど、多彩なテーマを日本語でスピーチすることで、異文化理解や国際交流のきっかけを作る。							
協力機関 及び団体	武里日本語教室		特色 位置づけ	共催事業		SDGs の目 標No	4・10・11	
会場	武里大枝公民館		教材 資料等	プログラム(教室作成)				
実施までの経過	5月中旬 打合せ 以降、随時打合せ 8月24日 ①の申込み開始 9月7日 実施		PR方法	公民館だより ポスター(教室作成) ブログ				
			受付方法	①直接または電話で武里大枝公民館へ(先着申込) ②発表者:教室が募集し、教室に事前申込み 聴衆:当日自由参加				
月日(曜)	時間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名	
回数	総時間数			男 計	女 計	合計		
9月7日(日)	10:00～11:30	① 外国料理(スリランカカレー)の料理教室を行う。出来上がった料理は、参加者だけでなく、発表会のスピーカーも試食(材料費:1組500円) ② ※順位付けは行わない	実技 体験	4	2	6	ceylon spot 店主 (セイロンスポット)	
	14:00～16:00						スピーカー (計26名)	
1回	3時間30分			35	74	109		
企画運営 上の工夫	・多くの外国人が居住する武里団地の特性を活かし、国際交流を図る事業として実施した。 ・令和7年度は料理教室を同時開催し、参加者や発表会のスピーカーなどとともに試食することで、異文化ならびに多世代交流を図る。 ・単に調理実習とならないよう、スリランカカレーとネパールカレーの違いなどに関する簡単な講義を行い、異文化理解の機会を創出した。 ・市民団体育成の観点から、スピーカーの募集・選考、プログラム等の資料作成、当日の準備や会場設営、司会進行など運営は主に武里日本語教室が行い、公民館は自主性をバックアップした。							
成果 参加者の 声 など	①料理教室とするランカの講義も一緒に行い、「他国のことが分かって楽しかった。」など、異文化の交流と理解を深めることができた。 ②・子ども4名、大人17名の10ヶ国の出身者から発表した。 ・「素晴らしいスピーチ、日頃の努力が伺える。」「難しい日本語を学び、日本での生活を頑張り、日本を愛してくれる皆さんに感動。」などの好意的な声が寄せられた。							
課題と展望	・武里団地内には多くの外国人が居住しており、さらなる交流を図るため、今後も開催していきたい。 ・「スピーチを聞くだけでなく、何かコミュニケーションのとれるイベントがあると良い。」との意見もある。今回、異文化交流となる「外国料理教室」を実施したが、さらなる仕掛けを構築していく必要があると感じた。							

事業名 テーマ	レクリエーション・スポーツ教室 パドルを使った權適(かいてき)体操		対 象	一般		定員	30名
ね ら い	高齢化の進む武里団地の住民を中心に、体を動かすことで健康の維持増進を図り、併せてふれあいの場を提供する。						
協力機関 及び団体			特 色 位置づけ			SDGs の目 標No	4・11・17
会 場	武里大枝公民館		教 材 資料等	パドル(講師用意)			
実施までの経過	6月下旬 講師折衝 以後メールにて打合せ 8月上旬 講師依頼 8月23日 受付開始 9月12日 実施		PR方法	公民館だより ポスター、チラシ ブログ			
			受付方法	直接または電話で武里大枝公民館へ(先着申込)			
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回 数	総時間数			男 計	女 計	合計	
9月12日(金)	10:00～11:30	「パドル」を使った体操	体験	1	13	14	NPO法人パドルジャークス体操協会 及川 優子
							
1回	1時間30分			1	13	14	
企画運営 上の工夫	・昨年に引き続き、老若男女問わず、誰でも簡単にできるスポーツとして企画した。 ・頭も身体もリフレッシュし、脳トレにもなる体操を、若年層から高齢者まで楽しめるようゲーム感覚で進めた。						
成 果 参加者の 声 など	・高齢者が多い中、講師の指導のもと、リズムに乗って体をほぐしていくことで、どの参加者も無理なく体操ができたようで、「とても楽しく、気持ちよく運動ができた。」との声が多くあった。 ・二人組になったり、輪になったりと他者との交流する場面もあり、笑い合っ楽しく体操ができたようだ。						
課題と展望	・パドルという聞きなれない道具を使う体操だが、やっていくうちに楽しさが理解されたようで、より伝わるための周知の方法に工夫が必要である。 ・「また企画してほしい。」「月に一度やってほしい。」等の声もあり、定期開催を検討するとともに、サークル化への支援策について模索していきたい。						

事業名 テーマ	春日部市市制施行20周年記念 第57回 武里団地地区体育祭	対象	地域住民	定員	種目により異なる	
ねらい	健康の維持・増進と体力の向上を図るとともに、地域住民の交流と親睦を深める機会づくりとする。					
協力機関 及び団体	武里南小学校 武里団地地区自治会協議会・5街区町会 第6地域包括支援センター・春日部警察署 主管：武里団地地区体育祭実行委員会	特色 位置づけ	重点事業	SDGs の目標No	4・11	
会場	武里南小学校 校庭	教材 資料等	プログラム			
実施までの経過	7月17日 第1回会議 9月11日 第2回会議(競技役員含む) 10月11日 前日準備 10月12日 実施 " 第3回会議(反省会)	PR方法	公民館だより ポスター・チラシ ブログ			
		受付方法	地区代表種目：各地区により事前募集 自由参加種目：当日自由参加			
月日(曜)	時間	内 容	方法	参加者		講師・助言者の職名 氏 名
回数	総時間数			男 計	女 計	
10月12日(日)	9:15～11:30	地区代表者(2種目) 地区別バトンつなぎ チームで玉入れ 自由参加(6種目) おたまレース 宝さがしレース パン取りレース 50メートル競走 防犯教室 抽選会	競技		173	
1回	2時間15分			173		
企画運営 上の工夫	・地域住民が気軽に参加できることをねらいとするとともに、団地内の高齢化を鑑み、前年度同様テントや入退場門を設置しないなど、事前準備や当日の運営等の負担を減らし実施した。 ・地区対抗競技の実施を望む声が多かったことから、「玉入れ」を対抗戦とした。 ・近隣中学生のアナウンスにより大会を進行するなど、より親しみやすい大会を目指した。 ・地区センター機能のひとつとしての防犯事業を、多くの人が集まる同事業の種目に組み入れ、春日部警察署員による団地内の犯罪傾向や、防犯に関する注意喚起などの講話を「防犯教室」として実施した。 ・市制施行20周年記念の取組みとして「抽選会」を実施した。					
成果 参加者の 声など	・「楽しかった」との声が多く聞かれた。小中学生の参加に加え高齢者や車いすの参加者もみられ、誰でも参加できる大会となった。 ・防犯教室は内容がわかりやすいという意見がある一方、資料があればより理解できるという声もあった。					
課題と展望	・アナウンス原稿は中学生にも読みやすいよう漢字にふりがなを入れる等改善する。 ・競技役員が事前に当日の動きを確認できる機会を設けたい。 ・会場で看板がなく、体育祭の参加を迷った人がいたため、看板等の設置を検討するなどより参加しやすい大会とする工夫が必要。 ・回数を重ね、実行委員からもさまざまな意見要望が出されるようになった。今後も誰でも参加でき継続できる大会を目標に、実行委員会で検討し、実施していきたい。					

事業名 テーマ	教養講座 シニアのための「スマホ相談会」		対 象	スマートフォンを お持ちの概ね60 才以上の方		定 員	各回12名	
ね ら い	武里団地及び周辺地域の高齢者のニーズが高い、スマートフォンの使い方についての 相談会を開催し、交流の場とするとともに、地域のDX推進を図る。							
協力機関 及び団体			特 色 位置づけ			SDGs の目 標No	4・10・11	
会 場	武里南地区公民館		教 材 資料等	LINEの使い方(スライド、配布)				
実施まで の 経 過	7月2日 打合せ 10月16日 以降、メールで打合せ 11月2日 受付開始 実施		PR方法	公民館だより ポスター・チラシ 安心安全情報メール				
			受付方法	直接または電話で武里南地区公民館へ(先着申込)				
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名	
回 数	総時間数			男	女	合計		
				計	計			
11月2日(日)	10:00～11:30 13:00～14:30	参加者が知りたいスマホの機能やその操作方法等について、ニーズ別にグループ分けをし、各々についてボランティアサークルのメンバーに個別に指導してもらう。	講座 体験	4	8	12	やどり木SPU binders 各7名	
				1	9	10		
1回	3時間					5		
企画運営 上の工夫	・大学ボランティアサークルと連携することにより、参加者個々のニーズに合ったアドバイスを可能にした。 ・参加者2人に対し1人の講師とし、親切で丁寧に対応するとともに、気軽に情報機器に触れたり活用する機会を創出する。 ・人気の講座であるため、午前・午後の二部制にすることで多くの方に参加してもらい、要望に応えられるよう工夫した。							
成 果 参加者の 声 など	・「丁寧、親切にわかりやすく教えて頂きました。とても助かりました。」 ・「LINEのスタンプが使えるようになり、友人とつながることができた。」 ・「ボイスレコーダー、画像の送信や保存などの使いこなしもできるようになった。」 ・「疑問が次々に出てくるので、今後も相談会を開いてほしい。」 ・「指導者1人に2人の参加なので、時間が足りなかった。」							
課題と展望	・昨年同様、午前と午後の2回、定員各12名としたが、満員での開催となった。高齢者にスマートフォンのお悩み解決や使いこなしたいと思っている方が多い証である。 ・スマホの機能が多様なため、身近で操作方法を教えてくれる人を求めている。 ・継続開催希望の声が多数あり、引き続き開催していくことが望ましい。							

事業名 テーマ	武里図書館共催事業		対象	事業により異なる	定員	事業により異なる	
ねらい	図書館が併設されている特色を生かし、図書館と公民館双方の利用者の交流を促し、社会教育施設としての幅を広げるとともに、図書とのふれあいを通し、若い世代が中心となった事業を展開することで、地域住民の情操の純化を図る。						
協力機関 及び団体	武里図書館	特色 位置づけ		SDGs の目 標No	4・11		
会場	武里大枝公民館	教材 資料等	武里図書館で用意				
実施ま での経 過	各事業とも実施までに、武里図書館との 打合せを行い、広報を行う。 出演者の折衝は武里図書館が行う。	PR方法	公民館だより ポスター・チラシ、SNS等 武里図書館だより				
		受付方法	武里図書館で受付				
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回 数	総時間数			男 計	女 計	合計	
11月2日(日)	14:00～15:30	①ビブリオバトル バトラー:お気に入りの一冊 を紹介 観覧者:一番読みたいと 思った本に投票	発表 鑑賞	6	9	15	武里図書館司書 バトラー5名
12月21日(日)	15:00～15:40	②クリスマスおはなし会 →クリスマスにまつわる絵本 の読み聞かせなど。途中、 サンタも登場。	鑑賞	8	7	15	武里図書館司書 サンタ:公民館職員
2月7日(土)	14:00～15:30	③たけさと寄席 →落語、紙切り、マジック		33	70	103	桂 南楽 林家 八楽 ほか3名
3回	3時間40分			47	86	133	
企画運営 上の工夫	①武里図書館共催の図書館まつりの企画として実施することで観覧者の増加を図り、バトラーについては、市内高校へ周知を行い高校生の参加につながった。 ②クリスマスにちなんだ大型絵本や、年齢にあった手遊びなどのバラエティに富んだ内容にするとともに、親子で楽しめるようサンタ登場の演出などの工夫をした。 ③地域ニーズの高い「寄席」について、予算の都合上単独では難しい演者との出演交渉を、図書館との共催とすることで実現した。						
成 果 参加者の 声など	①「普段は選ばない本を知れて視野が広がった。」、「各バトラーの思いが伝わった。」、「発表することに少し自信が持てた。」との感想が寄せられた。 ②部屋飾りを含め、本の読み聞かせやサンタの登場などの工夫をするるとともに、近隣の幼児サークルへの声掛けにより参加者が増加した。 ③「人それぞれの特徴があった。」、「昨年同様、楽しかった。」、「久しぶりに声を出して笑えた」と、大変喜ばれた様子で、次回開催を望む声が多く挙がった。						
課題と展望	①投票箱は、バトラー別とせず1つの箱で行うよう変更し、期待感や満足感の増進に努める。 ②保護者同伴となるため、部屋のキャパシティなどを勘案し定員を10組とするなどの対策が必要と考える。 ③寄席をテーマにした本の展示ブースについては、参加者がさらに興味を持つために有用であり、継続実施を検討する。						

事業名 テーマ	クラブ・サークル連絡会		対 象	公民館利用者等	定 員	定めず	
ね ら い	普段、公民館を利用している団体のほか、これから公民館を利用したいと考えている団体が、公民館の適正な利用と運営について考えるとともに、利用者と公民館の連絡及び利用者相互の交流を図る機会とする。						
協力機関 及び団体			特 色 位置づけ		SDGs の目 標No	4・11	
会 場	武里大枝公民館		教 材 資料等	公民館作成資料			
実施までの経過	12月中旬 団体へ案内を配付		PR方法	公民館だより ブログ・ポスター・チラシ 団体への案内			
	1月24日 実施		受付方法	当日受付			
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回 数	総時間数			男 計	女 計	合計	
1月24日(土)	10:00～10:30	公民館の利用方法について	説明	25	34	59	公民館職員
1回	30分			25	34	59	
企画運営 上の工夫	・公民館だよりに掲載するだけでなく、利用団体に直接案内することで、参加者の確保に努めた。 ・一定の参加者数を見込めることから、人権教育研修会を同時開催することで、より実りのある連絡会とした。						
成 果 参加者の声など	・日頃より公民館を使用している団体に向けて、公民館利用に関する注意事項や使用方法の変更点等を周知する機会とすることができた。 ・武里大枝市民センター、武里南地区公民館それぞれの利用者に直接案内して合同で実施したことで、両館の利用者との情報共有を図ることができた。						
課題と展望	・事例をもとにした注意事項の解説、事務局からの連絡事項を利用団体に伝える機会とするためにも継続的な開催を検討する。						

事業名 テーマ	人権教育研修会		対 象	公民館利用者等		定 員	定めず
ね ら い	差別や偏見のない豊かな人間関係を構築し、人権問題について認識を深められる場を提供するとともに、あらゆる人権侵害問題を多様にとらえ、その早期解決を図り、明るいまちづくりを推進する。						
協力機関 及び団体			特 色 位置づけ	クラブ・サークル 連絡会との同時 開催		SDGs の目 標No	4・11
会 場	武里大枝公民館		教 材 資料等	人権啓発DVD			
実施ま での経 過	11月中旬 DVD選定・予約		PR方法	公民館だより ブログ・ポスター・チラシ 団体への案内			
	1月24日 実施		受付方法	当日受付			
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回 数	総時間数			男	女	合計	
				計	計		
1月24日(土)	10:40～11:10	人絹啓発DVD「みんな笑顔になる日まで」 上映時間:30分	視聴	-	-	59	
1回	30分					59	
企画運営 上の工夫	・公民館だよりに掲載するだけでなく、利用団体に直接案内することで、参加者の確保に務める。 ・一定の参加者数を見込める、クラブサークル連絡会と同時開催し、公民館の役割について説明とあわせ、地域の方に知って居いただきたい社会教育活動について、周知する機会とする。 ・近年話題となっているヤングケアラーについての理解を深めるためDVDを、選定した。						
成 果 参加者の 声 など	・クラブサークル連絡会と同時開催することで多数の参加者を見込んだ。 ・アンケートでは、「誰かに助けてほしいと声を出す勇気も必要と感じた。」、「とても良いビデオでした。困っていることを素直に言える地域にしていくなにより、行政機関と連携して助け合う社会へ。」、「地域の民生委員・ケースワーカー等、多くの人の力を借りることは恥ずかしいことでない。」などの声があった。						
課題と展望	・参加者は前年度より微増となったが、社会情勢などを適切に捉えたテーマを選定するなどの工夫をし、より多くの方が参加できるよう、していきたい。 ・より多くの地域住民の皆さんににも参加してもらえよう、情報提供に務めたい。						

事業名 テーマ	高齢者安心安全教室 手軽に足腰を鍛えられる軽体操！		対 象	一般 (主に高齢者)		定 員	100名
ね ら い	団地支部社協が開催するお茶のみ会と合同で、高齢者が安全に生活するための基礎知識を身につける場を提供する。 昨年度に続き、高齢者の基礎的な体力づくりを目的として軽体操を実施する。						
協力機関 及び団体	社会福祉協議会武里団地支部 福祉ニーズ対策委員会 春日部市スポーツ推進委員		特 色 位置づけ	「お茶のみ会」と 同時開催		SDGs の目 標No	4・11
会 場	武里大枝公民館		教 材 資料等				
実施ま での 経 過	11月～12月 講師調整 1月中 講師打合せ 2月1日 受付開始 2月15日 実施		PR方法	公民館だより			
			受付方法	直接または電話で武里大枝民館へ (先着申込)			
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回 数	総時間数			男 計	女 計	合計	
2月15日(日)	10:00～11:30	高齢者が立位と座位の両方で気軽にできる体操やストレッチを実技形式で行う。	体験	7	65	72	春日部市スポーツ推進委員 小笠原 麻里 山田 農久
							
1回	1時間30分			7	65	72	
企画運営 上の工夫	・社会福祉協議会武里団地支部/福祉ニーズ対策委員会が行っている「お茶のみ会」と共催することにより、多くの方が参加できるようにした。 ・階段による移動の多い団地に住む高齢者の転倒による怪我を防ぐため、基本的な体力づくりを目的として、自宅でもできる軽体操を実施した。 ・スポーツ推進課と連携し、春日部市スポーツ推進員に講師を依頼することで、市内の人材活用を図った。 ・より多くの高齢者にとって体操をしやすいように、立位と座位の両方でできる体操やストレッチを実施した。						
成 果 参加者の 声 など	参加者から「楽しい脳トレや体操ができた。」、「適度な運動が良かった。」、「健康に良いので来年もやってほしい。」等の声をいただいた。						
課題と展望	・今後も他課と連携した市内の人材活用等も取り入れて、高齢者が興味・関心をもって参加できる講座を行って行きたい。						

事業名 テーマ	けやきフェスティバル		対象	一般	定員	企画により異なる	
ねらい	人と地域の連携を強化し、より強固なコミュニティを形成することで、地域力を向上させることを主な目的として実施する。						
協力機関 及び団体	URコミュニティ・第6地域包括支援センター・郷土資料館・ボランティア(公募)		特色 位置づけ	重点事業	SDGs の目標No	4・11・17	
会場	武里大枝公民館		教材 資料等	発表・体験イベント部門:出演者等 作成のレジュメ			
実施までの経過	12月4日 参加団体募集開始 以降、参加団体・協力団体 と随時打合せ・手続き		PR方法	公民館だより SNS等(LINE、ブログ) ポスター・チラシ			
	3月13日 前日準備 3月14日 実施		受付方法	発表・展示・販売は自由 体験・イベントは当日受付			
月日(曜)	時間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回数	総時間数			男 計	女 計	合計	
3月14日(土)	10:00～16:00	発表8団体 展示4団体 販売3団体 イベント等2団体	発表 展示 鑑賞 体験 販売	105	195	300	↓ イベント・物販等協力団体 フレイルサポーター 埼玉りそな銀行 ウクレレ合奏団はるれれ 明治安田生命 埼玉県立大学サークル やどり木SPUbinders 地域活動支援センターパタパタ
							
1回	6時間			105	195	300	
企画運営上の工夫	・サークルの高齢化による担い手の減少等の理由により、実行委員会方式による実施が困難となり中止となった文化祭に代わる事業として昨年度に続き実施した。 ・サークルによる発表だけでなく、地域に潜在する団体等を発掘し、地域住民が、より深く地域を知り、愛着が持てるよう工夫した。 ・地域性などを鑑み、年配の方のニーズが高いイベントを多く取り入れた。						
成果 参加者の声など	「全体的にゆったり、ほんわかした感じで楽しかった。」、「体調不良が続き気持ちが下がりが気味だったが、元気な方の姿を見て、私も元気になった。」、「これまで関心のなかったことをより深く知りたいと思えた。」などの好評の声が多かった。						
課題と展望	・フレイルサポーターによる軽体操、埼玉りそな銀行による特殊詐欺防止セミナー、明治安田生命による健康チェック、埼玉県立大学ボランティアサークルによるスマホ相談会など、比較的年配の方のニーズの高いものを中心としたが、アンケートや参加者の声から大変好評であった。 ・一方で、若い世代の参加が少なかったため、子ども向けのイベントの企画についても同時に検討を進める。 ・夕方の客足が少ないため、15:00までの開催とするなどの対応も視野に入れる。						

事業名 テーマ	防災をかんがえる ①～消火・避難・炊き出し訓練～ ②～救急救命・避難所開設訓練～		対 象	地域関係者・団 体・一般		定 員	一般 50名
ね ら い	令和6年4月より公民館に加わった地区センターの機能である「防災・防犯の拠点としての機能」を充実させるため、地域と行政が一体となるとともに、地域自らが主体となり、有事の際、確実に迅速な対応が図れるよう、避難所運営訓練や炊き出し訓練、救命救急訓練などを通して地域力を高めるために実施する。						
協力機関 及び団体	武里団地地区自治会協議会・5街区町会・URコミュニティ・第6地域包括支援センター		特 色 位置づけ	重点事業		SDGs の目 標No	4・11・17
会 場	①近隣公園内時計台広場付近及び 武里南地区公民館調理室 ②武里大枝公民館		教 材 資料等	②警防課・危機管理防災課にて用意			
実施ま での経 過	6月下旬	随時打合せ	PR方法	公民館だより10月号、12月号 ブログ			
	8月上旬	予防課派遣依頼・決定・打 合せ					
	9月上旬	講師派遣依頼、以降随時 打合せ	受付方法	武里大枝市民センターに直接もしくは電話で			
	10月24日	実施					
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回 数	総時間数			男 計	女 計	合計	
10月24日(金)	10:00～12:00	第1部 水消火器を使用した消火 訓練 第2部 防災施設を使用した避難 訓練 第3部 アルファ枚・とん汁の炊き 出し訓練	体験	19	26	45	第1部 消防本部予防課 第2部・第3部 自治会役 員・市民センター職員
1月16日(金)	10:00～10:30	AEDを使用した救命救急訓練	実技 実技	14	22	36	消防本部警防課職員 危機管理防災課職員
	10:45～11:45	避難所開設訓練					
2回	3時間30分			33	48	81	
企画運営 上の工夫	・昨年実施した、避難所開設訓練を伴う防災に関する講座の内容をさらに深めていくため、有事の際にスムーズに使用ができるよう、自治会協議会の防災倉庫やUR都市機構の防災設備を使用した訓練を実施した。 ・危機管理防災課や消防本部との打合を密にし、防災における武里南(団地)地区の課題やニーズを的確に捉えるようにした。 ・各所に設置されているAEDをいざという時に正しく躊躇なく使用することができるよう、実践的な訓練を実施した。 ・消火訓練では、自分事として捉えることができるよう、団地内での状況等についての講話を行った。 ・地域関係者および団体に広く声をかけるとともに、一般の参加者も募ることで、災害に対し地域全体で立ち向かえるよう配慮した。						
成 果 参加者の 声 など	・近隣公園の防災機能を初めて知る参加者が多く、地域住民を巻き込んだ訓練の重要性を再認識できた事業となった。 ・『色々体験ができ、多くの人とお話ができてよかった』『皆の協力がなければ難しい事に気付かされた』などの感想から、初対面同士でも作業を進める中で次第に協力し合う姿が多く見られた。 ・炊き出し訓練による非常食の会食は、地域の協力意識をより強化し、他の訓練共に防災に対しての意識強化になったと思える。						
課題と展望	・すべて初めてのことで、準備に手こずる場面も多く、今回 3部門に分けて行ったの訓練をより発展させ、定期的な開催を考えていきたい。 ・『2年に1回ぐらいやってもよい』 など次回開催を望む声からも、防災意識の高まりを感じた。より多くの地域住民の参加を促していきたい。						

事業名 テーマ	ナンプレ教室		対 象	小学4～6年生		定員	なし
ね ら い	キッズスペース(子どもの居場所)を利用する子どもたちが楽しく過ごせる時間を提供する。						
協力機関 及び団体	市民講師		特 色 位置づけ			SDGs の目 標No	4・11
会 場	武里大枝公民館		教 材 資料等	講師指定の問題を公民館で用意			
実施ま での経 過	12月4日 講師打ち合わせ		PR方法	ポスター・チラシ・安心安全メール キッズスペース利用者への案内			
	12月中 事業について周知						
	1月4日 事業実施		受付方法	当日受付			
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回 数	総時間数			男 計	女 計	合計	
1月4日(日)	13:30～14:00 14:00～15:00	ルール説明、解き方の解説 ナンプレを解く 	体験 	0	1	1	小林ナンプレ教室
1回	1時間30分			0	1	1	
企画運営 上の工夫	・地区センター機能の「子どもの居場所」づくりとして活用した。 ・キッズスペースを利用する子どもたちに直接案内をすることで、参加者の確保に努めた。 ・春日部市生涯学習人材情報に登録している講師に依頼をすることで、市内の人材活用を図った。						
成 果 参加者の 声 など	・「先生に優しく丁寧に教えてもらい、とても楽しかった。次回は中級や上級をやってみ たい。」という感想をいただいた。						
課題と展望	・参加者数が少なかった要因として、事業実施日を1月4日にしたため、参加できない 小学生が多くいたものとする。次回実施する際には、一人でも多くの参加を見込める 日時や期間を設けたい。						